

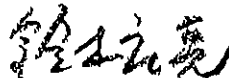
両委員長さま、平成17年3月26日の村田町廃棄物対策委員会・専門委員会は残念ですが、欠席させていただきます。現在の私、鈴木庄亮委員の意見は次のようです。

1. 埋め立て物、地層、土壌の調査と内容分析・化学分析、地層内の水・ガス、環境空気中の各種化学物質と臭いガスの分析など、3月は初めまでに必要な環境側のデータはほぼ出そろいました。アンケートによる住民の健康調査(角田調査)も提出され討議されました。
2. 環境空気中の硫化水素、悪臭物質群、その他各種ガスのレベルは、現状では健康影響あるいは感覚公害をもたらすレベルではないこと、今後の見通してもメタンと二酸化炭素は増加することはあり得るが硫化水素の濃度が増加することはまずないことが、3月初めの委員会の準備資料で述べられております。
3. 3月初めの委員会で委員から、硫化水素の慢性的健康影響を考慮すべきではないか？ 複合汚染によって別の健康影響をもたらされているのではないか？ との問題が提起されました。私見では2つの事象ともその可能性は極めて低いものです。
4. 角田調査で化学物質過敏症が成立しているとの結果のため、住民は一層不安になるかもしれませんが、化学物質過敏症の身体症状は、慢性疾患ではぜんそくやアトピー性皮膚炎です。これらはどこにでもあるもので、該当地区住民にかぎりません。しかし、それで困っている住民の方たちに対しては因果関係は別としてただちに医療の手をさしのべるべきでしょう。
5. 住民の現在のトップ2の要請事項は、1)健康問題、および 2)水溜まりになる町道の修復です。四月以降この2つの要請に応える対応をすべきでしょう。
6. 住民の健康被害の不安、および人によっては悪臭に悩まされた時期の影響に関係について、あるいは現在かかえる健康問題等について、健康相談の機会と体制をつくり、心の健康も含めて対応することを提案します。
7. すなわち、時期をみて(今はまだ早いかも)、住民個人個人に何らかの癒しのアクションをとることが良いと思います。地震災害後によく保健師が出向いて被害者の相談に乗るように、住民の言いたいこと、悩み、不安を一人ひとりに聞いてあげるアクションをとることが必要でしょう。その手段として、質問紙のTHI、Total Health Index を使うと個別にメンタルヘルスクアが効果的に出来ると思います。方法は委員会での検討事項です。

以上、私の見通しと意見です。

平成17年3月25日

群馬大学名誉教授、鈴木庄亮



独立行政法人労働者健康福祉機構群馬産業保健推進センター所長、

NPO法人国際エコヘルス研究会代表